

学校法人 大阪滋慶学園 鳥取市医療看護専門学校 学校関係者評価

令和2年度自己点検自己評価(令和2年4月1日～令和3年3月31日)による評価

【2021年10月18日実施】

大項目	点検・評価項目	点検・評価項目総括		課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	現状・具体的な取組み等			
1 教育理念・目的・育人人材像	1-1-1 理念・目的・育人人材像は、定められているか	4	本校の教育理念や育人人材像は開校当初より明確であり、学生便覧、学校ホームページ、学校案内等に明示されている。これらの理念等は学校説明会やオリエンテーション、保護者会等を通じて関係者に周知されている。社会の変化を速やかに教育に反映させるため、業界訪問による常に新しい情報を収集し教育カリキュラムや教育指導方法の改善を図っている	令和2年度は、コロナ禍の中感染拡大防止留意し、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会を実施。学外委員からの意見を取り入れ学校運営の充実を深めたい。業界を訪問するキャリアセンター職員や教務スタッフを中心に、業界で求められる人材ニーズや能力をさらに精査し、カリキュラムや教育手法の改善を図るとともに、社会に求められる人材育成を行ってきたい。	4	・コロナ禍での学校運営にご尽力した新たなニーズに対応し教育理念のもと、人材育成が図られている。 ・視野が広げられる海外研修が実施できるようになればと思います。 ・人間力の育成に力を注いでおられることがよくわかった。
	1-1-2 育人人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	3	学生便覧には学科の教育目標、育人人材像、取得目標資格等が記載され、学生にも周知されている。カリキュラムの編成には、業界ニーズを反映させるしくみができている。教員の採用に際しては業界等の協力を仰いでおり、学内講義、実習、行事等では業界関係者が直接指導して、業界の現状や求められる人材像などが学生に伝えられている。必修科目である学外実習では業界の現場体験が可能である。	キャリアセンター職員を中心に、業界で求められる人材ニーズや能力の調査を行っているが、さらなるシステム化が必要である。教員採用に関しては関連業界からの協力が得られているが、教材の開発については継続的な課題である。最終的にキャリアセンター職員の業界情報収集を統合して各学科の付加価値教育に反映させる仕組み作りに取り掛かる。実践的な内容の教材作成について、業界との連携を図るため、職能団体、業界関係者等と協議に取り掛かる予定である。		
	1-1-3 理念等の達成に向け、特色のある教育活動に取組んでいるか	4	本校では課題研究や海外研修プログラムなどの特色ある教育活動により、職業に直結した教育を展開している。	さらに特色ある内容の教育を充実させていく。ICT活用した教育展開		
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4	中長期的な学校の将来構想は法人の5か年計画や事業計画に定めており、学校内の会議等で教職員に、また学生・保護者・業界関係者には学園新聞やホームページで周知している。	学校の将来構想については、より具体的にわかりやすく学校関係者に周知できるよう努力を続ける。		
2 学校運営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	4	学校の運営方針は教育理念や育人人材像をもとに設定され、毎年度作成される事業計画に明示されている。事業計画は教職員の代表者により作成され、校内の会議を通じて周知を図っている。	事業計画書に基づき、運営方針の徹底を今後も継続していく。	4	・学校運営に必要な理念と学校運営に対しての取り組み姿勢について説明を受け、取り組み姿勢に共感しました。 ・パスワードの変更頻度はどの程度されているのか。
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画は定めているか	3	法人は5か年計画を策定しており、学校教職員に対して様々な行事や会議を通じて理解と共有を図っている。事業計画は5か年計画をもとに毎年度作成されており、年度目標、予算、運営体制、職務分掌なども明記されている。	5か年計画および単年度事業計画には詳細で具体的な運営計画が記載されているが、PDCAの「C」にあたる進捗確認と計画修正の時期や内容については明文化されていない。PDCAサイクルで学校運営を行うにあたり、「C(チェック)」についても計画の中に具体的に記載するよう改善する。各部署間の連携運動も保つ。		
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	4	運営母体である学校法人大阪滋慶学園では、理事会、評議員会を寄付行為に基づいて開催され、議事録も保管されている。寄付行為の改正は規定に基づき適切に行われている。	適切に運営されている。		
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	4	学校内には事務部、教務部があり各々の職務分掌や組織図は教育指導要領や事業計画に明記されている。各種の会議や委員会組織についても同様に記載されており、議事録も会議ごとに作成され保管されている。学校内の組織運営に関係した各種規定を整備され、学則等とともに閲覧が可能である。これらの改正は規定に基づいて実施されている。組織運営に関する教職員への研修は法人が主体となって定期的に実施され、マネジメント能力の向上が図られている。	適切に運営されている。 エンロールマネジメントに沿った研修内容および成果について、さらに精査していく。 研修展開のICT活用		
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	4	人材採用は法人ホームページに公開され、また教員の採用では業界職能団体などからも情報を収集し、学校運営に適した人材を採用している。教職員の人事考課制度は法人全体で共通であり、教職員各々の自己評価と上長評価をもとに行われている。	採用や人事考課等の人事関係については、法人本部が学園全体を統括して運営しているので、特に問題はない。		
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	4	学内の意思決定システムや書類の流れは学内の各種会議・各種研修で教職員に周知されている。また意思決定については、各種の規定や事業計画の中にも明示されている。	社会情勢・業界情勢の変化の早い時代の中で、速やかな意思決定が必要となっているので、今後もより早い運用面での改善を図っていく。		
	2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化が図っているか	3	学生の入学前から卒業後までのデータは、学校業務の基幹システムであるAS400により管理されている。このシステムは独立回線によってサーバーとつながっており、また担当者によってアクセスできる範囲に制限があるのでセキュリティが保たれている。システムのメンテナンスは提携している企業によって一括管理されている。	学校基幹情報システムは過年度の卒業生データや資料請求者データなど膨大なデータからできている。これらの情報を有効に活用するには、セキュリティを守りつつ使い勝手の良いシステムも必要である。 昨年度に引き続き資料請求者に関するデータや出席・成績データなどのシステムの工夫、改善が進められている。		

学校法人 大阪滋慶学園 鳥取市医療看護専門学校 学校関係者評価

令和2年度自己点検自己評価(令和2年4月1日～令和3年3月31日)による評価

【2021年10月18日実施】

大項目	点検・評価項目	点検・評価項目総括		課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	現状・具体的な取組み等			
3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	平成27年の学校開設時に、本学建学理念である「人間教育」「実学教育」「国際教育」の精神に基づき、各学科で教育目的・目標を掲げ、その内容を学生便覧および、教育指導要綱に明記している。毎年、入学オリエンテーションや保護者会、講師会議等で、教育目的・目標、および本校の教育活動及び指導の在り方についての説明を行っている。3つつのポリシーを学生便覧に掲載し、講師会議、新規オリエンテーションにて周知徹底している。	社会状況や地域のニーズ、業界のニーズに適合していることが重要であり、事務局次長、事務部長、教務部長、教務副部長、学科長が各種会議で検討するが、さらなる実情に応じた内容を検討していくことが重要である。学生、保護者様、地域、行政と一体になった教育を拡幅していくことが今後の責任と課題である。本校は4期の卒業生を輩出させて頂き、地域の医療福祉に最大限に貢献出来る学校を目指していくことが重要であり、不可欠な責任である。すべての学科が理念を確認し、情報を常に共有し、学生に教育出来る内容を拡幅していくことが方策として考えている。	優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	3	「実学教育」、「人間教育」、「国際教育」の理念に基づき、地域・社会に貢献出来ることが重要と考える。 看護学科では、1年次に基本的な考え方・知識・技術を習得し、生命への畏敬の念と価値観を有する。2年次は科学的根拠をもとに判断し、解決できる知識・技術を習得し、3年次は多様なニーズに適切な支援を行う専門職としての総合看護観を高める。理学療法士学科・作業療法士学科、言語聴覚士学科は、1年次に社会人・医療専門職として必要な基礎学力を育成し、2年次は疾患や治療を学び評価技術も高め、臨床現場にふさわしい人間形成を習得し、3年次は臨床能力(知識・技術・総合判断力・探究力)等、総合的な形成を図っている。	最終的な到達レベルはすべての学科において、国家試験合格に必要な知識・技術を習得し、臨床能力の要素である知識・技術・態度・情報収集能力・総合判断力等を高め、様々な臨床に対応する応用的能力を身につけることである。 さらに、課題研究を通して、専門性に関する探究心を育て、積極的に臨床に取り組むことが可能な態度を育むことも到達レベルである。 地域や社会に即して、即戦力として貢献出来る専門職育成がこれからの大いなる課題である。 すべての学科において、基礎分野、専門基礎分野、専門分野を有し、看護学科では、統合分野、理学療法士学科・作業療法士学科、言語聴覚士学科では、その他として国家試験対策講座や総合演習を有している。 1年次から卒業学年次での単位取得や理解力における状態を分析し、より効果性の高い教育を推進していくための検討を図っていくことが今後の方策である。 新型コロナウイルス感染症対策として、遠隔授業やPC活用を含め、教育水準の維持に努める。		
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4	看護学科は基礎分野13単位、専門基礎分野22単位、専門基礎分野Ⅰ13単位、専門基礎分野Ⅱ38単位、統合分野12単位の科目を系統的に学ぶ。理学療法士学科は基礎分野14単位、専門基礎分野32単位、専門分野67単位、その他11単位を学び、作業療法士学科は基礎分野18単位、専門基礎分野44単位、専門分野79単位を系統的に学ぶ。 毎年、教育内容・方法や担当講師の見直しを行い、改善に努めている。	超高齢社会を迎え、さらにインフルエンザ等々感染対策が急務の現在、医療職の存在が地域で非常に重要である。崩壊を招かないための、マインドを確保した即戦力の人材の育成が地域を保全維持に不可欠であると考えられる。よって、最新情報や新たな地域での任務を捉え、より適切な講義・演習・実技を展開することが課題と考えられる。 社会情勢を的確に把握し、地域での状況や医療の在り方、福祉の実情を加味することのできる教育を継続して遂行することが重要と考える。 言語、理学療法、作業療法、言語聴覚療法は、予防から治療医学まで大いなる存在価値であり、固った方々の人生を支え、共に生きていくマインドを形成しながら、一貫した教育を実施するためのミーティングを行い、確認と検討を継続化する。		
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	3	すべての学科において、年に1～2回程度の「実習指導者連絡会議」をZoom形式で行い、2回の教育課程編成委員会を行い、業界の方々のニーズや要望を把握し、検討するように努めている。参加者は卒業生も存在することから意見聴取を行っている。	実習内容や活動領域において、相当な個別化が認められるために、最大限の共通項を見出し、いくことが今後の課題である。 チーム医療のメンバーであるために、全員で遂行するためのコミュニケーションが今後の教育での課題であり、結果は学生実習で培われると考えている。 教職適性を高め、学科長、専任教員とともに地域に最大限貢献出来る看護師、理学療法士、作業療法士を誕生させることが不可欠である。 よって、実習や担当講師など、地域の現場を体験し、習得させて頂ける方々や実習場所を選定させて頂くことが重要と考える。		
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか	4	本学園において、「キャリア教育ロードマップ」があり、これを基に全教職員がキャリア教育を実施している。 さらにキャリアセンターの情報も踏まえ、就職先の声や卒業生の声を聴取している。 OB会での研修会なども踏まえ、可能な限りの状況を把握し、活かしていく所存である。	キャリア教育においては経年的な情報が重要であると考えられる。 今後は卒業生が毎年、誕生していく中で、より量的にも質的にも充足されていく情報やニーズを可能な限り、焦点化し、学校教育に活かしていくことが今後の課題である。 定期的な研修会や行政活動、地域とのコミュニケーション、実習地との情報共有、高校からの情報提供など多様な意見を徴収していくことが可能である。 キャリアセンターや広域からの情報から、適切な教育方法、教材も含め、より効果的な方策に取り組んでいく。		
	3-9-4 授業評価を実施しているか	3	授業終了時に「授業評価アンケート」を実施し、授業内容や講師の説明、理解度、満足度、学生本人の出席確認等、5段階評価で実施している。 結果を担当講師にフィードバックし、良好化に向けている。	学生ニーズを重要とし、本人の動機づけや集中度、理解度にも影響を及ぼすものである。 よって、可能な限りすべての科目において、良好化せしめるための担当講師との密接なコミュニケーションを図り、次回に活かすことが課題である。 学生のアンケート結果で重要な内容も多く認められるために、担当科目でどのように反映していくことが可能なかが今後の方策。 学外での実習における個別化された内容に共通項目を見出し、改善につなげていくことが今後重要と考える。	4	
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4	単位認定に関する評価をシラバスに明記している。また、追試・再試については、学則・細則に明記し、学生には、入学時、単位認定試験前、必要時に説明を行っている。年度末には、単位認定会議、卒業判定会議があり、学生個々の学習状況や出席状況を確認し、学則に沿って適正な判定を行っている。また、入学前の履修科目に関しては、認定申請を受け、判定会議で協議の上、認定判定している。前期、後期の学生の学習成績と単位認定を保護者に送付し、未履修科目に対しては保護者にも説明している。	学習効果を高めるためにシラバスに示された成績評価の基準や方法を学生に徹底して授業を行う必要がある。 出席状況、提出課題など繰り返し、確認出来る体制を保持することが学生教育での有効な課題と考える。 学則を徹底して認識してもらうように担任を含め、フィードバックすることが必要と考える。 成績評価は非常に学生の学業年限を決定し、人生の道標を築く重要な評価である。 忘却することで不利益が生じないためにも教育は配慮と愛情が大切と考える。 面談や普段の授業で限界に至る前に手を差し伸べるように行うことが重要と考える。		
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	3	実習や学習の成果を研究やケーススタディとしてまとめ、4学科合同で課題研究大会として、地域、実習施設、保護者、学校関係者へ発信している。 作業療法士学科においては、産官連携事業の一つとして市と連携しバリアフリー点検を実施し、その報告会を市や住民と共に実施している。	教員の研究に対する知識とスキルをさらに向上させていくことが重要である。 今後、学内研修をし、研究方法についてスキルアップを図る。また、実習施設を巻き込んだ産官学連携を通じた研究を推進する。		

学校法人 大阪滋慶学園 鳥取市医療看護専門学校 学校関係者評価

令和2年度自己点検自己評価(令和2年4月1日～令和3年3月31日)による評価

【2021年10月18日実施】

大項目	点検・評価項目	点検・評価項目総括		課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	現状・具体的な取組み等			
3 教育活動	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置付けているか	4	取得できる資格と資格を取得するために必要な学習内容については、学生便覧に明記している。各学科の細則・内規で資格を取得するレベルを示している。 国家試験対策を学科で共有し、最善の内容で教育を遂行していく形態を保管するものである。	国家試験の受験資格には、すべての科目の履修が条件となっており、この内容は学生や保護者に入学時のガイダンスや保護者会で説明しており、周知されている。国家試験対策の模擬試験や補習は、カリキュラムの中にすべてを入れ込むことが難しく、教科外活動(課外授業)として実施している。土日の学習指導が今後の課題である。 開設年度より、読解力検定や文章表現力をつけられるよう入学前教育や課外授業を実施してきたが、今後も引き続き行う。	優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	4	全学科、1年次からの国家試験スケジュールを立案し、1年次より国家試験対策を実施している。各模擬試験の結果と照らし合わせながら、学生個々に指導している。 学内には、国家試験対策委員会があり、4学科で効果的な対策や指導について意見交換する場がある。また、外部講師にも国家試験の傾向等を伝え、講義内容に活かしてもらおうよう働きかけている。 不合格者に対しては、卒業後も学校で指導を行っている。	学園の国家試験対策センターによる学習支援体制があり、教員向けの研修会も実施されている。国家試験対策は担任だけでなく、すべての教職員が関わり実践していく必要がある。系列校での学科チーム会を有し、最新情報や教育内容を確認して遂行している。 国家試験では、文章読解力にとどまらず、臨床実習での判断力が求められてきており、実習で関わる指導者には、臨床の場での学生のさらなる学習支援の協力を求めている。現在、国家試験不合格者に対しての卒業後の支援体制を整えつつあるが、低学力者への支援方法についても委員会を中心に学生個々に合った学習方法を検討していく。		
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	4	専門学校教員、特に国家資格系学科の教員には様々な要件が存在している。そのため採用時には履歴書、学歴証明書、資格証明書などの確認を行い、人物面では複数の面接官による面接により確認を行っている。また、専門分野の教員の場合業界の職能団体等と連携して採用募集をする場合もある。いずれにしても法令遵守は最重要課題であるので、学校と法人本部が双方で確認を行っている。 学校内では教員の担当科目や授業時数について一覧表で管理を行い、教育内容の質を保つよう指導している。	教員の教育経験により、業務分担や量に差がある。最近では、学生の多様化に伴い、専門的な知識や技術のみならず、学生の生活や学習習慣への支援等も必要になってきた。またメンタル面の問題を抱える学生や発達障害などの学生の対応も負担が重くなっている。 教員の資質向上、およびモチベーション維持に向けた研修や取り組みを計画する。また、担任だけで学生の問題を抱えることがないように、情報共有する機会を増やす。		
	3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	4	本校の教職員は、本学園のFD活動・システムに沿って開催されている教員のスキルアップ研修に参加することができる。 学内では、1回/月に教職員全員が集まり、教育力UPに関する研修や発表会等を実施し、教員指導力等の研鑽を行っている。	学園で開催されるFD研修は、都市部での活動が多く、すべての教員が参加することが難しく、研修テーマに応じた教員が研修に参加しているのが現状である。 今年度よりその研修内容を必ず教職員全体会で伝達講習することを義務づけた。学内の研修も教員の資質向上に向けて行っているが、実習地回り、授業などと重なることも多く、全員が参加することは難しい。 現在、各教員の資質向上についての評価は上長がしており、本人の自己評価を基に評価することが望ましい。 新しい教職員も多く、キャリアラダー制度を導入し、教職員へ提示できるようにする。		
	3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	3	学校の組織・管理については、学校長を筆頭に事務局次長が中心となり、各教員組織、事務組織を取りまとめている。会議規程に則り、毎月学科長会議が開催され、教務部長を中心に学科の要望、問題提起、意見交換が行われている。	組織図に明示された組織体制で業務が遂行されている。 学校運営に係る委員会活動が多くあり、業務量の調整が必要である。		

学校法人 大阪滋慶学園 鳥取市医療看護専門学校 学校関係者評価

令和2年度自己点検自己評価(令和2年4月1日～令和3年3月31日)による評価

【2021年10月18日実施】

大項目	点検・評価項目	点検・評価項目総括		課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	現状・具体的な取組み等			
4 学 修 成 果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	3	年度初めに、学科ごとに目標設定をおこなっている。その上で適宜教務とキャリアセンターとの情報共有をはかるミーティングを実施している。 定期的に業界訪問を実施し、業界の動向と就職状況について確認している。 また業界研究の一環で3月～5月にかけて就職がイタンスを開催をしている。 AS400にて就職データを管理している。	業界により就職活動時期が異なるため学科によって学生の就職意識の高まる時期が異なる。 次年度を見据えて就職支援を行うためにも業界より一歩早い就職意識と活動が出来るよう支援していく事が必要。 教務と連絡を密に取り学生の状況に合わせて就職活動を実施。 求人開拓先及び卒業生就職先を中心にアポイントを取り訪問やICT活用を展開する。 訪問時には業界と学校がwinwinの関係作りが出来るような打合せを常に意識して県内、県境域に訪問を実施する。		
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	4	各学科において入学前から目標設定を開示している。 各学科において正規の授業以外に国家試験対策や資格取得対策への補習や講座を実施している。 各学科において過年度のデータを全て記録・保管し比較している。 国家試験対策委員会にて、他学科の学習方法を参考にするなど、国家試験対策を行っている。	2020年度において、国家試験合格率は、看護学科92.9%、理学療法士学科86.4%、作業療法士学科84.6%、言語聴覚士学科100%であった。 全国平均は看護師90.4%、理学療法士79.0%、作業療法士81.3%、言語聴覚士65.4%であったことから資格・免許の取得率は高い状態であることが認められた。今後はさらなる合格率向上に向けて邁進していく所存である。 国家試験対策において、過去問を徹底して解くことを念頭に、弱点補強を遂行していく。 各学科で傾向を探索し、現実的な方向性を検討し、国家試験対策に活かす。 法人におけるセミナーもネット活用可能であり、年間を通して時系列的に効果のあるスケジュールを保持し、100%合格に向けて、個別面談も導入しながら図っていくこととする。	4	・国試の合格率は全国平均より高い水準で推移している。100%を目指し引き続き尽力いただきたい。 ・卒業研修会等実施して地域のニーズに貢献できるようなシステムを充実させてほしい。 ・就職率の現状を数値として記載すべき。 ・卒業生の社会的評価の収集を可能な範囲でお願いします。
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	4	卒業研修会や同窓会活動等において、卒業生の現状での活動や方向性、課題等を可能な限り集約し、学術活動への動機づけを学校主体で継続して実施している。	実習施設に就職した学生も少なくなく、実習調整等で卒業生にヒアリングを実施しているが、同窓会活動を初めその他の方法は受動的な情報収集のため情報量は十分でない。 同窓会組織の活性化を図り、定期的な運用を行い、同時に同窓会案内等を活用して、就業状況や卒業生の業績を定期的に入手していく。また、得られた情報の集約と整理を行い活用しやすい仕組みを構築する。		

学校法人 大阪滋慶学園 鳥取市医療看護専門学校 学校関係者評価

令和2年度自己点検自己評価(令和2年4月1日～令和3年3月31日)による評価

【2021年10月18日実施】

大項目	点検・評価項目	点検・評価項目総括		課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	現状・具体的な取組み等			
5 学生支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	就職支援のためキャリアセンターを設置している。キャリアセンターと教務で定期的なミーティングを実施し就職内定率の向上を図っている。情報共有のため、PUBに学生の就職内定状況を管理すると共に、内定速報を掲示板に掲示している。最終学年前に学科毎でガイダンスを実施し、履歴書の書き方、面接指導をおこなっている。毎年、学科毎または合同で就職説明会を開催し、求人施設の担当者から直接話を聞くことができる。また、教員の実習施設訪問時に求人情報を収集し、キャリアセンターと共有している。	学生個々に応じた適性や希望する進路を把握し、受験先の検討や対策指導が課題。学習面(国家試験対策、模擬試験、臨床実習)の状況をふまえた指導。卒業後のキャリアプランについての教育。キャリアセンターが就職登録簿カードから卒業学年の状況(希望する進路など)チェック。成績上位者(国家試験合格ライン)から就職活動を実施。学科毎の就職ミーティングを通じてキャリア教育プログラム内容を検討		
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	3	日々の出欠状況を出席簿で確認し、欠席等は事由を確認するとともに、学科日報及び月1回の学科長会議で報告している。定期的な学生面談に加え、必要に応じて適宜面談を実施し記録に残している。学校全体・学科毎に退学者数(退学率)・退学理由を集計し、サポートアンケートも活用して分析している。学力不安層に対しては補習等で対応し、担任指導に加え、専門カウンセラーによる支援を実施している。	入学者全体の学力水準が低下しており、学習面(学力・学習習慣)での置きが契機となり退学へとつながる事例が生じている。入学前教育や補習をはじめ様々な対策を講じ学習習慣の確立に努めているが、効果的な改善にはいたっていない。また近年は、対人関係や実習等による精神的ストレスが原因で、休学から退学に至るケースも少なくない。入学前から学生個々の課題を可能な限り把握し上で、面談やアンケート等を活用し早期に兆候をつかむよう努めるとともに適切なフォローを実施する。特に学習面での課題に関しては、予め支援プログラムを構築・実施し、メンタル面の課題に対処にはカウンセラーと連携した対応を取っていくとともに、学生個々の対応可能な環境整備にも努める。		
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	4	退学者の中には、発達障害や精神面の問題を抱える学生も少なくない。クラスでは、定期的な面談以外に多く個人面談を実施している。中でも少し問題があると感じた学生については、保護者への連絡・相談だけでなく、本校のスクールカウンセラーと面談をさせるようにしている。症状により、医療機関の紹介もしている。	学生の面談報告書や退学者の報告書から分析すると、学力だけでなく、人間関係、自己肯定感の低さ、精神的ストレスから退学に至るケースが多い。担任と一緒に問題解決できる指導力と担任をサポートする学科体制を整える必要がある。学生個々の個人情報管理もしっかりしながら、サポートする体制を整えて行く必要がある。学園で実施しているサポートアンケートの活用に加え、日々の学校生活の観察から学生個々の問題を教員が早期発見、理解しながら適切な対応ができるようにする。		
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	3	学園の学校には留学生も多く、しっかりとしたサポート体制が整っている。また本校の建学の理念に「国際教育」があり、本校には、諸外国の大学教員等が来校される機会が年に何回かある。	姉妹校として、外国人留学生を受け入れる準備を進めている必要がある。しかしながら、今まで留学生が本校の入学を希望する例がなく、支援体制や相談体制は整っていない。法人や姉妹校と連携を取り、留学生に関する情報を収集した上で、どのような支援が必要かを明文化していく。		
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4	各金融機関の金利情報や奨学金制度情報を法人グループ収集・共有し、状況に応じて学費担当者が、個別に相談に応じている。学費分納制度をはじめ、日本学生支援機構奨学金制度、鳥取県奨学金制度等々の入学前に学費に関する説明会実施、昨年は、高等教育支援制度の認定を含め、印刷物の配布やホームページに掲載等、学生・保護者に周知を図っている	本校としての支援は可能な範囲で最大限行っている。社会状況や経済状況の把握や情報収集をほかり、ホームページの学費関連情報記載事項の充実や個々の状況に応じた適切な対応に努め、経済的問題により学業を断念する学生が無くなるよう取り組んでいく。また、学校組織として、さらに充実した支援体制の構築に取り組んでいく。		・退学率が今期は例年に比べ高いと報告があった。学校運営において退学者を出さない取り組みを解決方法に記載の通り実施していただきたい。
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4	年1回、定期健康診断を実施し、結果は学校保管と学生配布のうえ、要再検査対象者には受診指導を行っている。学校医である「慶生会クリニック」が学生、教職員の健康管理の支援をおこなっている。飲酒・禁煙・薬物の使用に対する注意喚起など印刷物の配布やポスター掲示などで学生に啓発している。	学校医、健康診断実施事業所と十分な支援体制をとっている。学年上の健康意識を高めることも必要。特にコロナ禍においては、臨床実習中は毎日の体調管理について実習施設と学校への報告が必要。学内において保健衛生環境整備委員会を設け、法人内では年1回健康管理担当者会議を実施して連携体制の更なる向上と健康指導への充実にも努めている。また、感染症等々の注意喚起を充実させていく。臨床実習中は「健康チェック表」を活用する。		・(鳥取への就職支援について) ・学生の希望を尊重しながら、地域への定着が図られる進路指導・支援を望みます。また、そのための地域の医療機関との連携、関係構築に向けた取組を進めていただくようお願いいたします。 ・学生への相談、支援の体制は整えられていると思いますが、退学率が目標に達してなく、退学理由も多岐にわたると思っておりますので、個々の理由に応じた支援を行い、少しでも退学される学生が減るように望みます。
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	4	立地上、学生寮は設置していないが、地元の優良な斡旋業者による賃貸物件を案内している。	遠隔地から就学する学生については、合格後に賃貸情報冊子を配布している。また、経済的負担を軽減するため、奨学金や教育ローンなど学費支援も併せて行っていく。		・退学率の現状を数値として記載すべき
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	3	サークル活動(体育系、文化系)は学生便に活動規定を設け、学友会組織として教職員が顧問となり運営している。また、コロナ禍においては活動を控えている。	サークル活動、課外活動に関しては、学生の自主的な活動として取り組んでおり、活動状況や取り組み方に差がある。コロナ禍における活動指針が必要。学友会を中心として学生の意識や教職員間の意識を高め、サークル活動では、学校全体で学生の安全を考慮しながら活動を支援していく。コロナ禍における活動指針を作成する。		
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	4	保護者との連携体制を強化する方策として、入学時の保護者会、在校生学年、最終学年保護者会を実施している。保護者会では、教育理念に基づいた教育活動の紹介や学生の学習状況、各別説明会では、学科の特性や単位認定、コロナ禍での臨床実習、国家試験、就職等の説明をし、希望の保護者には、教員との個別面談を実施している。当日参加できない保護者にも当日の資料等を郵送し、別日に個別相談を実施している。個別懇談会実施の際は、学生面談記録を参照し、学生生活状況の問題共有を図っている。	保護者会参加が難しい場合や日頃の連絡がとりにくい保護者に対しての対応方法の検討が必要。学園では、地域、業界、高等学校、本人、保護者からの情報を得ることが学校の評価につながる。考え、保護者への連携をより努力する。保護者会だけでなく、日頃より何かあれば適宜連絡や相談をして、個別面談など保護者と連携をとりながら学生をサポートしていく。		
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	3	全卒業生は卒業時に同窓会会員となり、年2回発行する学園新聞により情報提供や卒業勉強会を案内している。言語聴覚士学科の卒業勉強会は定着している	理学療法士学科では外部講師による研修会を実施したが、看護学科、作業療法士学科では卒業勉強会の準備が整っていない。全学科とも卒業生数が増加していることから、今後は全学科合同の開催も検討したい。全学科とも卒業生数が増加していることから、同窓会システム、勉強会活動の役割を明確にし、学校ホームページでの広報など更なる卒業生の支援体制を確立したい。		
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	3	卒業後の連携プログラムに向けて情報収集を行っているが、実際の取り組みには至っていない。	卒業生数の増加に伴い、業界・職能団体との密な連携を図ると同時に、学会・研究活動への参加も必要。関連業界や職能団体・学会との連携を強化し、在校生への特別講義や共同研究等、新しい取り組みを実施・検討していきたい。			
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3	本校入学前に大学、専門学校等で履修した単位は学則の規定に従い認定を行っている。修業年限を超えての科目履修はできないが、必要に応じて卒業後も図書室、自習室の利用を許可している。又、社会人学生は、個々のキャリア形成を把握し就職相談に応じている。	社会人学生の入学に伴い、既修得単位認定などキャリア形成に応じた取り組みの拡大も要する。入学予定者に向けて既修得単位認定スケジュール・提出書類を早期に告知し、単位認定を行えるシステムを構築したが、始講までの単位認定が急務である。国家試験不合格の卒業生を対象に、リスタートセンターへの登録促進、自己学習の進捗状況の確認など、卒業後も的確な支援ができるよう体制を整えた。			

学校法人 大阪滋慶学園 鳥取市医療看護専門学校 学校関係者評価

令和2年度自己点検自己評価(令和2年4月1日～令和3年3月31日)による評価

【2021年10月18日実施】

大項目	点検・評価項目	点検・評価項目総括		課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	現状・具体的な取組み等			
6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4	設置基準を意識し実習室ならびに実習機器等は設置している。教室施設台帳を作成し教室の敷、利用状況などを管理運営する。 図書室に関して利用状況を把握し今年も新しい図書を購入している。 学生ホールを2ヶ所設置している。 施設・設備はバリアフリー環境である。 コロナ禍で卒業生の勉強会や職能団体等へ校舎利用の提供の際は、リモート型機器の整備を配置。 定期的な清掃及び点検・メンテナンスを行い不慮な破損時も早急に対応している。 短中長期の計画で予算をたてる。	校舎内には共有スペースとして2箇所の学生ホールを設け、多くの学生が集い利用している。 自己学習利用だけでなく食事や相談のにも使用されてる。 新型コロナウイルス感染拡大防止を意図とした施設レイアウトを留意している。		
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4	建学の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の実践の場として学外実習、海外研修を位置づけ、教育指導要領「学外研修・海外研修指導マニュアル」に基づき、実施、指導を行っている。 学外実習は、教員が実習先を訪問し指導者と連携をとりながら進め、成績評価基準に準じて評価している。又、実習報告会を行い実習の成果を共有するとともに、終了後は報告書を提出させている。 学校行事には、学生執行役員や学生スタッフが運営に関わっており、卒業生・保護者には学園新聞や案内状を送付し行事の案内をしている。	学外実習の実施要綱や契約書等を随時確認していく必要がある。また、学生の多様性や変化に伴い、実習前後の実習指導内容、実習評価基準等についても精査する必要がある。 海外研修については、コロナ禍でのオンライン授業等を充実させるために、海外提携校と綿密な事前打ち合わせが必要である。 学校行事については、幅広い年齢層の学生にも対応できるようプログラムの工夫が必要。 学外の実習施設での事故など、緊急時にも対応できるように実施要綱や契約書の準備、実習指導者会議の開催、実習指導者と密に連絡をとるなど、実習施設からの理解を得られるように努めている。また、指導内容が適切であるかどうか、毎年見直しが必要である。 海外研修については、前年度の研修の様子を伝え、目的や意義を説明することが大切である。また、海外事業部を通して研修先との情報交換を行い、より有用な研修内容となるよう努めている。 学校行事については、積極的な啓発活動を行うと同時に学生が参加できる環境を整えることも必要である。	3.9	・国際教育で海外研修は異文化での授業は学生の視野を広げる上で大きいですが、コロナ禍で難しい部分もありますが、可能な限りトライしていただければと思います。留学生受け入れを検討してはどうか。アジア圏ではリハビリテーションの需要の高まりもあり今後発展が期待でき国際交流の位置づけとしても貢献できる。
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3	災害発生時に対し速やかに対応できるよう役割分担を表にしている。 校舎の耐震化に関しても管理会社と提携し対応。 毎年1回避難訓練を実施している。 棚、機器など災害時に転倒防止として固定設置などを施している。 「教育指導要領」に基づき学生・教職員とも「学生規程」の施設・実習室の使用規程を設け指導している。	年1回の防災訓練は実施、防火管理者を配置して、器具固定や避難口の確保をしている。実施とともに一層の防災意識を高める。 消防避難訓練を通じて学生指導を行う。		
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3	学校安全計画を策定し、明示している。 グループサポート企業による機器関連、学生保険など保険の加入など徹底して行っている。防災マニュアルブックを全学生に配布している。 薬品、危険物の所有はない。	本学園における保険加入(機器)また学生の安全対策としての保険加入を実施しており十分なものになっている		

学校法人 大阪滋慶学園 鳥取市医療看護専門学校 学校関係者評価

令和2年度自己点検自己評価(令和2年4月1日～令和3年3月31日)による評価

【2021年10月18日実施】

大項目	点検・評価項目	点検・評価項目総括		課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	現状・具体的な取組み等		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	
7 学生の募集と受入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	4	高等学校等で実施される進学説明会への参加や高校との連携授業を実施している。また、学校案内の他に高校教員や保護者を対象とした資料等も作成している。	医療国家資格の今後の重要性や専門職業教育機関の取り組みが明確に伝わっていない。今後も引き続き高等学校等との連携を密にとり、さらに高専連携授業の強化に取り組む。専門の学びを高等学校へ普及できるように努めていく。	3.9	・社会人からの入学相談に親身になって応じてくださり感謝しています。今後も入学に際する支援が充実していくことを望みます。 ・コロナ禍で募集活動にも制約があり、リモートによるオープンキャンパスなど、様々な取組をされていると思いますが、定員住職に向けてさらなる取組をお願いします。
	7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	4	鳥取県私立学校協会に加盟し、ルールに基づいて適切な時期に願書受付を行っている。質問・相談は来校時に個別相談で対応し、メールなどでも質問を受け付けている。学校案内は、真実性・明瞭性に基づいて作成している。法人内に広告倫理委員会や個人情報保護委員会を設置し、チェック体制を整えている。オープンキャンパスは土日開催し、平日の個別相談も実施している。コロナ禍において対面型とリモート型で対応。また、指定校推薦、推薦、スポーツクラブ推薦、卒業生・業界推薦、適正AO、社会人、一般等の入試を実施している。	コロナ禍において、来校ができない状況の中、Zoom活用したオープンキャンパスの質の向上をはかる。志願者からの入学に関する問い合わせや質問に対しては、入試事務局が窓口となり、一人ひとり丁寧に対応していく。また、オープンキャンパス参加者には個別相談の時間を確保し、質問しやすい状況をつくり対応していく。入学希望者が希望する内容を踏まえてイベントを企画し、実施していき、高校1・2年生対象に職業の啓発や職業観の育成ができるイベントも実施していく。		
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適正に運用しているか	4	入試選考は、募集要項で明記した基準に基づいて行っている。選考に関しては、入試判定会議を行い、公平かつ適正に合否を判定している。	今後も合否判定において、入試選考基準の明確化と公平性を確保するよう努めていく。		
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4	資料請求から出願までのデータは、学校基幹システムのAS400にて一元化し、入学までの推移を学科別に把握している。年度別・学科別に受験者・入学者の情報をデータ化し、把握している。入学者情報を教務部と共有し、学生指導にも活かしている。入学選考は年度毎に計画・予算を決定し、運営している。	入試の試験制度の見直しをおこない、入学生の基礎学力や学習習慣を把握し、入学後に指導が的確に行うことができるように努めていく		
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4	募集要項やホームページにて学納金を明記しており、毎年、カリキュラムに合わせた金額の見直しを行っている。	一人ひとりの状況に応じて学費相談についても対応している。		
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適切な取扱を行っているか	4	入学辞退者に対する授業料の返還の取り扱いについては、募集要項に記載し、適切に対応している。	充分に考慮のうえ、対応している。		
8 財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	負債の総資産に対する割合が基準を満たしている。債務超過になっていない。借入金償還額が帰属収入割合をクリアしている。貸借対照表の当年度収支差額がマイナスになっている。	収入基盤となる募集経費の見直しや収入の増加によって現金預金の流動資産に対する割合をもう少し増やすように努力していく。経費の見直しや収入の増加によって現金預金の流動資産に対する割合をもう少し増やすように努力していく。 エンロールマネジメントに沿った学生募集や講師契約数を計画していく。	4	
	8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	4	主要な財務比率を算出して経年比較をしている。(資金収支・事業活動収支・貸借対照表)	今後も5か年の予測を立てて、収支改善に努力していく。		
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4	毎年の事業計画に基づいて予算執行を行なっている。	中期計画は多少の変更が生じるので毎年の事業計画によってその変更を予算に入れ込んでいく必要がある。		
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	4	毎年の事業計画に基づいて予算執行を行なっている。	エンロールマネジメントに沿って5年間計画をしていく。		
	8-30-1 私立学校法及び寄付行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4	定期的に監事のヒアリングを受け、決算日後に公認会計士と監事の会計監査を受けている。			
	8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	財務情報を知りたい利害関係者のために閲覧体制を整えていると同時にHPでも公開している。事業報告書もHPで公開している			

学校法人 大阪滋慶学園 鳥取市医療看護専門学校 学校関係者評価

令和2年度自己点検自己評価(令和2年4月1日～令和3年3月31日)による評価

【2021年10月18日実施】

大項目	点検・評価項目	点検・評価項目総括		課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	現状・具体的な取組み等		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	
9 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	本校は厚生労働省管轄の国家資格系4学科を擁しており、手続きや報告等は行政の指導に基づき適切に運営を行っている。また就業規則などの諸規定を整備し、教職員に対しては会議や研修でコンプライアンス(法令遵守)を守るよう指導している。学生に対して「関連法規」や「キャリア実践科目」の授業の中で医療職者として守るべき倫理を含めて指導を行っている。	教職員や学生の相談窓口は設置されているが、コンプライアンスについての窓口としては周知が行き渡っていない。 教職員や学生の相談窓口でどのような相談が可能であるかをわかりやすく提示するように改善していきたい。	3.9	引き続きコンプライアンスの充実をお願いいたします。
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4	全教職員に個人情報保護の外部研修CPA講座の受講を徹底している。毎年更新。個人情報保護に関する規定は学生履歴や入学募集要項などに明記している。個人情報保護台帳を作成し、個人情報の保護を順守しており、管理及び情報の漏えい防止に努めている。毎年更新。	新入職員が入職することを踏まえ、啓発活動を継続的に行う必要がある。個人情報の重みを理解しているが風化しないような動機付けが必要。様々な視点から個人情報を意識できるようにする。大きな研修だけで終わるのではなく管理のチェックを含め、定期的なHRの機会を活用し継続的に啓発を行う。資格の更新を毎年行い意識付けしている。		
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	規定に基づいた自己評価は、平成30年度より実施している。学期諸規定は整備されている。	自己評価報告書の作成にあたって、さらに多くの意見を集約できるような体制作りが必要である。年間計画の中でいつからどのように自己評価報告書を作成していくかを明らかにし、十分な時間をかけて作成していきたい。		
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか	4	平成令和元年度より自己評価を公表している。	自己評価報告書の公表について、学校の年間計画の中に位置づけて実施しなければならない。		
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	3	令和元年度より学校関係者評価の実施体制を整備している。地域・行政機関、高等学校、業界関係者、保護者、卒業生から委員を選任し、意見を取り入れている。	自己評価を学校関係者評価者の意見を取り入れる。学校関係者評価の結果についても、年間計画の中で位置づけて実施していくことが必要。		
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	3	令和元年度より学校関係者評価を公表している。	学校ホームページ上でよりわかりやすく表示する。		
	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的にしているか	4	学校全体および各学科の教育情報については学内の委員会や会議によってデータ収集がなされ、学校ホームページに公開されている。	教育情報や教育データの流れを改善することにより活用範囲が広がるので、一層の改善が必要である。 学内の委員会組織の役割を明確にし、自己評価や学校関係者評価に活用の仕組みを作っていく。		
10 社会貢献・地域貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	本校においては産官が連携したプロジェクトによって、地域に貢献できる活動を行っている。その延長上として住みよい街づくりのために本校学生がボランティア活動を率先して行ってきたが、コロナ禍での活動自粛となっている。 方針・規定は各学科が設定してプログラムを作成している。 また、関連業界が研修会等で本校を使用した実績がある。 生涯教育におけるキャリア教育の実施のため、本校の教員が当該高校を訪問し、連携授業を行っている。 また、地域に根ざした生涯学習のためのセミナーを本校で開催している。	地域貢献について、まずは地域の実情を把握することに努め、各学科の特徴を生かした地域とのつながりをさらに高める必要がある。 館内施設の開放を促進することで地域の中の専門学校であることをアピールし、そのつながりからボランティアや卒業研究の協力などに至り、さらなる地域への貢献が増していくよう努力が必要である。 環境問題等の重要な社会問題への活動は十分ではないため検討する余地がある。 本校でのこれまでの実績を地域にアピールし、本校を活用していただけるように広報活動していただく。 保健や医療に関するセミナーを学校側から開き、本校の教育や人材育成を活かして、地域に発信することで本校の認知度を高めていく。さらには外部からの講師を招聘したセミナーを開催することで、最新の情報や具体的な活動について学び、学校と地域の双方での関わりが深まってくる。 また、社会問題へ対応した教育について、授業に組み込んだり、地域の活動から問題を挙げ対策を考えたりすることで、学生や教職員が社会問題に意識を持つようになる。	4	海外の教育機関との交流ができることは有益であり、学校の魅力でもある。 コロナ禍において、地域貢献活動、ボランティア活動が制限されていますが、可能な活動を引き続き行ってください。
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	3	海外の教育機関との連携は長年行われ、今も国際教育の根幹をなしている。本部の海外事業部と連携を組み、海外研修が計画され、その中で様々な取り組みが行われている。本校に関して留学生の受け入れは開校以来実施されていない。 海外教育機関との共同研究や、人事交流も実施されていない。	学科ごとに海外研修が用意されているが、本校の教育内容・方法などの情報の国内外への発信力をさらに深める必要がある。留学生については受け入れの態勢が準備されていない。 連携先での教育内容などにも積極的に教員が参加し、創り上げる努力が必要である。交流は盛んであるので、もっと多くの共同のイベントを開催し、国際水準を理解する。また、そのことによって情報の発信力や目指す各職種への意識も高まると考えられる。		
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	4	本校では鳥取市内を中心とした病院、高齢者施設、障がい者施設、スポーツ団体、地域からの要請でボランティア活動を行っている。 学内にはボランティア担当の教員を配置し、そこから様々なボランティアの情報を発信している。昨年度は、コロナ禍での活動制限があったが可能な限り参加した。	これまでは、依頼が来たものに対して受けていたことが多く、不定期的な要素が多かった。恒常的にボランティアの機会を設定できるようにしたい。 年度内に行われたボランティアの参加数等の記録は残されているが、評価や学内での共有については実施する必要がある。 ボランティアの年間計画を作成し、これまでボランティアを依頼された各団体との連携を密にして、各時期に実施されるボランティアを計画表にしてわかりやすくする。 今後、各学科でのボランティア活動については、活動状況や参加した人数などを学校ホームページに掲載し、各年度において参加者を評価する機会(認定制度など)を設けたい。		